

みつぎ便り

140号
5月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成30年5月1日 https://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report/

オニタビラコ

今、見次公園は新緑が眩しいくらい鮮やかな季節です。今年には気温が高いためでしょうが桜が終わったらすぐに樹々が鮮やかさを増しました。池の柳も緑の色を濃くして薫風にそよいでいます。水面も光を反射して、鴨たちの動きも活発になってきているように見えます。そう、今が一年で最も心が弾む春の真っ只中です。公園を散策していると池の南の通路脇で可愛らしい黄色い野草を見つけました。オニ



タビラコと呼ぶ路傍や庭などに生える一年草です。見次公園でもあちらこちらに咲いています。全体に軟毛があり切ると乳液が出ます。五、十月にかけて開花します。日本全土、中国、台湾、インド、オーストラリアなど広く分布しています。

季節は間もなく初夏へと移ります。樹々が一層葉の色を濃くして日陰が恋しくなるシーズン到来です。
(重)

コデマリ (小手毬)

小さな花を球状にたくさん付け、枝が垂れ下がる様子は見事です。名前は、球状になった花を小さな手毬に例えて付けられたものですが、最近では「手毬」と言われても、分からない人が多くなっています。その姿を鈴にみたてて「スズカケ」という別名もあります。

中国原産の帰化植物ですが、寒さや土質にあまり気を使う必要がなく、手入れもしやすいことから、現在でも公園や庭木に盛んに植えられており、



また切り花や生け花の材料として広く利用されています。見次公園では、バス道路沿いのポンプ小屋脇で、白い手毬状の花をびっしりと咲かせ、楽しませてくれています。

バラ科のコデマリに近い仲間として「ヤエコデマリ」、「シモツケ」、「ユキヤナギ」があります。一方、「オオデマリ」や「ヤブデマリ」、「テマリカデマリ」は花の名前や姿はコデマリに似ているのですが、これらはコデマリとは類縁ではなくスイカズラ科に属する全く別物です。
(静)